

みんなの未来きこう

発行：特定非営利活動法人全員参加による地域未来創造機構
発行責任：半澤彰浩



地域を豊かにするための連続講座



大船POP-UPスペースにて

市民基礎講座・地域を豊かにする連続講座はともに大船会場での講座を終え、2023年度の全てのカリキュラムを終了しました。

これからは市民が主体で行う制度外の活動が大事であると実感しました。自分は何ができるのかを考えさせられた研修でした。



フィールドワーク
コミュニティカフェ6丁目クラブにて



市民基礎講座

大船POP-UPスペースにて



フィールドワーク
地域の居場所さっちゃんちにて

市民基礎講座を受けて、「〇〇だからできないな」と思うのではなく、まずは自分のできるところで、できる範囲で動き出すことが大事だなと思いました。やっぱり大事なのは仲間！この講座に参加した人たちと一緒に動いていきたいと思っています。

人間関係をスムーズに、事業活動のマネジメントに役立つ実践的な講座

・2023年度最後の講座になります。

キャリアアップ講座

⑩2/14(水) 10:00～12:00 介護過程

★会場：オルタナティブ生活館(新横浜)

★オンライン(ZOOM)でも会場でも受講できます。

第2回 地域未来フォーラム

みんなでやるから

豊かなコミュニティをつくるワーカーズ・コレクティブの価値と可能性
今はないけど、地域に必要だからつくっちゃおう！

ワーカーズ・コレクティブっておもしろい！

2024年3月25日(月) 14:00～16:30

会場：新横浜スペースオルタ

(YouTubeライブ配信併用)

地域で暮らしていくために必要な生活福祉サービスを「使える」人はますます限られていくこれからの時代。人々が生き生きと暮らせる豊かなコミュニティづくりという目標をもって、人と人のたすけあいの関係性を築いていくアソシエーションとしてのワーカーズ・コレクティブの時代への期待が高まります!!

基調講演、ワーカーズ・コレクティブの事例を通して、ワーカーズ・コレクティブの価値、可能性をおおぜいで共有し、多くの意志ある市民の参加によってワーカーズ・コレクティブを楽しく軽やかに生み出していくためのフォーラムを開催します。

基調講演

ひとりの気づきを地域の課題へ ～新しい活動・仕事をつくる～

地域をDIYする ～自分たちで地域をおもしろく 講師：清水 謙氏

事例報告・トークセッション

モデレーター：清水 謙氏

3つのワーカーズ・コレクティブからの活動報告があります。

お申し込みはこちら



(特非) 全員参加による
地域未来創造機構
(略称：未来機構)



〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F

TEL:045-534-7131

FAX:045-534-7151

E-MAIL: minnano@miraikikou.org

URL: https://www.minnanomiraikikou.org

アソシエーション活動交流会

出会う・つながる交流会開催報告



2023年11月14日(火)かながわ県民センター301会議室にて開催

地域の多様なたすけあい活動に関心のある人、参加したい人、すでに活動している人たちが交流しつながる場として開催しました。アソシエーション・市民活動団体の皆さん18団体30名と未来機構のスタッフ15名の合わせて45名の参加がありました。(報告:桜井薫)

「2023年度地域を豊かにする活動調査(アソシエーション活動実態調査)報告」

2023年4月～8月にかけて、未来機構は人と人とのつながりを通して豊かな社会の構築をめざして活動している市民活動団体の調査をしました。151団体に回答していただいたwebアンケート調査と、その中から20団体を選び行ったヒアリング調査結果を報告しました。

活動報告

一般社団法人リトルハブホーム(茅ヶ崎市)

報告者 代表理事 岩崎愛さん、事務局長 宗野創さん



左:岩崎愛氏 右:宗野創氏

“小さな拠点(ハブ=人・場所)が広がれば町全体がひとつ(おおきな)のhomeに”

～リトルハブ構想実現にむけてのステップアップ～



緑側のある古民家
「みんなの家」

リトルハブホームは、2022年10月、茅ヶ崎市東海岸南の縁側のある古民家で「おばあちゃんち」をイメージした「みんなの家」を開設し、「おむすび寺子屋」(小中学生が安心できる地域の居場所)、「こどもおとな食堂」(誰でも気軽にこれる食堂)、テーマごとの集い(児童委員による”みんなの食堂”、看護師による”まちの保健室”等)の3事業を展開しています。

20年前から子どもの福祉にかかわり、多くの「こどもの困った」に向き合ってきた代表の岩崎さんは、その背景にある社会問題の根本に認知度の低さから来る偏見、孤立があると考え、まずは、地域の人々が気軽に関われるきっかけとしてのイベント開催をすすめてきました。現在は、ボランティア参加を広げる養成講座や子どもと出会う場をつくり、最終的には子ども達とゆるく長くつながる拠点(ハブ)となる人を増やすことをめざした活動をしています。地域の共感と広いネットワークを作るため

に、自分たちが何をしているかを知ってもらうこと、多様なイベントを通して一緒に活動することで、組織ではなく人単位でつながることを大切にしてきたといえます。

今後の課題は、毎日安心の場を開き、「こどもの困った」に寄り添う受け入れルートを作ることのこと。こどもも大人も地域で安心して育ち合う場づくりに向けて、人を大切にしながらステップアップしていく活動に共感しました。



おむすび
寺子屋

富岡サロン ジュピのえんがわ(横浜市) 報告者 事務局 西田克也さん 空き家を活用したサロン運営

～えんがわと駄菓子屋が象徴的な多世代の憩いの場～

ジュピとは、代表の高橋秀子さんの愛犬の名前。息子さんが拾ってきたジュピを飼うために20数年前に金沢区富岡に引っ越してきました。富岡地区は戸建て中心の高齢化が進む地区でしたが、マンションが建設されると子ども達が増えてきました。高橋さんは異世代間の関係の希薄さを感じ、「えんがわ」をイメージした多世代の団らんの場を作りたいと願うようになり、犬仲間を中心に有志でサロンを運営しようと活動を始めました。

どうすれば実現できるのか手探りの日々が続く、先輩拠点の見学やヨコハマ市民まち普請整備事業見学ツアーへの参加などを行っているうちに、知人の紹介で区の地域力推進担当と「茶の間」支援事業を紹介され、そのタイミングで「えんがわ」の残る古民家と出会うことができ、平成28年3月の「ジュピのえんがわ」のオープンにいたりしました。



西田克也氏



サロンは多世代の交流の場

以後運営や周知の工夫を重ね、現在は、週6日サロンと駄菓子コーナーを運営。地域の多世代交流や憩いの場となっています。他に認知症予防のスリーA、健康体操、陶芸や吊し雛等の各種教室、季節のイベント、また、高齢化が進み買い物も不便な地域ということで週1回ずつ「パンの日」「新鮮野菜の日」などを開催しています。

当日報告された事務局の西田さんは、「行き当たりばったりに進めてきた」と言われましたが、現在は多世代が集まり、地域のニーズに合った居場所となっています。自分たちの身の丈に合った活動を大切に、他団体との連携を広げてきたなどの工夫が参考になる報告でした。



昔懐かしい
駄菓子コーナー

ワールドカフェで交流

交流会では、参加者が6グループに分かれて、ワールドカフェ方式で行われました。ワールドカフェでは、ひとつの答えや結論を出したり課題を解決したりすることではなく、参加者全員が意見を言い合い、お互いの認識を深め新たな気付きを得たり、参加者同士の理解を深めることが主な目的です。テーマ1は「活動調査結果や活動事例紹介の中で興味深かったことは？」テーマ2は「これからめざしたいこと、今後やってみたいことは？」ということでスタートしました。

(報告:上田祐子)

私が参加したグループでは、活動発表を行ったリトルハブホームの宗野さん、中間支援団体の方など4名でした。「市民活動センターの登録団体はいくつくらい?」「子ども食堂の食材の調達はどうしているの?」など、自由な雰囲気でお話が進みました。



テーマ2では、活動内容がさまざま、活動歴も14年~2年以内というメンバーが各活動紹介を行いながら対話しました。

内容として、活動歴が長い団体は、法人格を持ち活動資金の確保や情報発信の手段も整備され、制度への政策提言活動を行っているなど進んでいることが分かりました。一方、活動歴が浅い団体では場所はあっても人が集まらない、活動場所の確保、資金調達、物資の調達等のたくさんの課題が出ており、お互い持っている情報を伝えていました。熱気が冷めやらぬまま、テーマ2が終了。

活動規模の大小はありますが、それぞれ課題意識を持ち、地域の必要性から活動に取り組んでおられる方ばかりで、「力になりたい」熱い思いを持って語られる姿が印象的でした。交流会終了後もあいさつを交わしたりや名刺交換などが続いていました。



地域の個人・団体・企業のつながりで関わる人皆が幸せを感じられる地域社会に!

ワールドカフェでの声から

フードバンクを仕組みとして根付かせたい。ひとり親家庭がまちで幸せになれるように!

地域の人たちがふと立ち寄れる場所、親子だけでなくおじいちゃんおばあちゃんも一緒に関わられる場所を作っていきたい。



自分の困りごとを“解消したい”をスタートにする

岩崎さん15年越しの実現、すごい! 中間支援組織に相談できる!と知った。アドボカシーも意識して活動していることを知った。

子どもも大人もシニアの方も人は一人では生きられないことを改めて実感しました。自分の中でこういう活動をしたい気持ちを実現できるか不安でしたが、一歩踏み出すことが大事と勇気が出ました。

市民活動団体の情報共有・相互交流の「場」づくりに向けて

ワークショップ開催のお知らせ

つながりをつくる

1月18日(木)9:30~12:15

会場: 藤沢市役所 市民利用会議室2
(藤沢駅北口より徒歩約5分)

「情報共有・相互交流・学び合い」の場はどうあったらいいの?

★リアル参加とWEBサイトの交流の「場」を連動させます★

★どの団体にも、共通する課題や問題意識がある★

今年度、未来機構では「地域を豊かにする活動調査」(アソシエーション活動実態調査)を実施し、どの団体にも共通する課題や問題意識があること、また、それを工夫しながら乗り越えている団体があることもわかりました。

市民活動団体の情報共有・相互交流ができるリアル参加の「場」、WEBサイトなど、どういったものがあたらいいの?ワークショップを開催します。どなたでもご参加ください。

ファシリテーター
清水 謙氏



ヒトコトデザイン株式会社 代表取締役 / チガラボ 代表
1974年生まれ。商社、ITコンサルティングを経て、株式会社リクルートマネジメントソリューションズにて企業の人材育成・組織開発に関するコンサルティングに従事。2014年にヒトコトデザイン株式会社を設立し、2017年コワーキングスペース「チガラボ」を立ち上げた。

アソシエーション情報

吃音を持つ学生による音楽団

「コンアニマ」

(川崎市)

11月5日(日)、川崎市総合自治会館(中原区)で、吃音を持つ学生による音楽団「コンアニマ」によるイベントが開催された。映画「注文に時間がかかるカフェ～僕たちの挑戦～」上映会、出演者によるトークショー、そして吃音を持つ学生による音楽団コンアニマの音楽ライブの3部構成のイベントだ。主催者の喜多龍之祐さん(高校2年生)にお話を伺った。(取材:野村美湖)

注文に時間がかかるカフェ映画化まで

今から約2年前、高校受験を間近に控えたある日、インターネットで吃音に関連するイベントをやっている奥村安莉沙さんのことを知った。親にも相談して直接連絡を取り、奥村さんが「注文に時間がかかるカフェ」(以降彼らの表現を借りて「注カフェ」と表記)を全国各地で開催していることを初めて知ったという。その後、オンラインから打ち合わせを重ね、2022年夏に川崎市で「注カフェ」の開催を実現した。

この注カフェ開催前後を撮ったドキュメンタリー映画が「注文に時間がかかるカフェ～僕らの挑戦～」だ。



代表の喜多龍之祐さん



映画の出演者であり、コンアニマのメンバーでもある喜多さんが自身の吃音に気づきだしたのは小学3年生。音楽という表現方法の魅力を感じ、小学4年生でスティールパンに出会って以来演奏を続け、中学・高校では吹奏楽部・軽音楽部で打楽器を演奏している。

メンバー 左から 西川未空(19歳) 梨本大嵩(20歳) 過心杏(19歳) 喜多龍之祐(17歳) 中澤仁成(19歳)



活動する中で変わったこと

吃音者の割合は100人に1人も言われているが、喜多さんの周りで同じような悩みを持つ人と出会ったことはなかったそう。しかし、素直に包み隠さず自分の思いを伝え、注カフェで同じように悩む人や支え合おうという人たちと出会ったことで、「直そう・隠そうとしなくてもいいんだ」と心が開放されたという。

吃音者はオンラインイベントをやっている人が多いが、今回の企画をメディアが取り上げてくれたことで認知がひろがり、コンアニマのSNS(X旧Twitter)に「活動に参加してみたい」というメッセージも届くようになった。



吃音を持つ学生による音楽団体コンアニマの活動

映画に出演した、自身を含む3人の学生が音楽をやっていて「一緒にやりたいね」という話になり、コンアニマの活動を始めた。その後、別の地域で開催された注カフェ参加者からも2人のメンバーが増え、約半年間の練習期間を経て5日に5人で初ステージに立った。

団体名はイタリア語で「魂・自分の思いを込めて」といった意味があるコン アニマ(con anima)からとった。楽曲をどのような想いで演奏するのかを指示する発想(曲想)標語(記号)の1つ。団体名の付け方を吹奏楽の先輩に相談したところ、音楽用語の中から選ぶ方法を教わり、探す中で自分たちの思いにピッタリだと見つけたという。

コンアニマの活動を知りたい方はこちら(X旧Twitter)



コンアニマ@吃音音楽団 (@kon_anima) / X
https://twitter.com/kon_anima

今後の展望

喜多さんを含め、現メンバーは来年は受験や就職などの活動が控えている人も多いが、メンバーと作ったオリジナル曲を録音して発信したり、一緒にやりたいというメンバーと一緒にセッションを色んなところでやったりできたら、とコンアニマの次なる展開への思いを語ってくれた。また、喜多さんの進路については、吃音に何かしら関わられる、心が解放されるような空間をつかっていける進路にすすみたい、とのこと。

今後の活躍に期待し、エールを送りたい。(のむら みこ)

発行:2023年12月20日

発行者:(特非)全員参加による地域未来創造機構(略称:未来機構)

〒222-0033横浜市港北区新横浜2-8-4 オルタナティブ生活館3F

Tel:045-534-7131 Fax:045-534-7151 E-mail:minnano@miraikikou.org